

本説明書は施工前に必ずお読み下さい。施工後には御施主様にお渡しください。

# 樂lock S·P·C® flooring 施工説明書

## 1.はじめに

- 施工前に、受け取った製品に傷等がないことをお確かめください。
- 原則として、施工後の返品や交換には応じかねます。
- 未開封の箱は常に水平な場所に保管してください。長時間の立てかけ保管は避けてください。
- 商品の運搬や一時的な立てかけの際は、商品の角部分が破損しないよう丁寧に取り扱ってください。
- 本製品は屋内での使用のみを目的としており、床材としてのみ使用してください。

## 2.施工前

- 施工前および施工中に、すべての床材に目に見える欠陥や損傷がないか調べてください。
- 損傷した床材を取り付けないでください。目に見える欠陥があるまま施工された場合、床材に対する責任は負いかねます。
- 美しい仕上がりにするため、施工時には一度、仮並べして仕上がりや美観を確認してください。
- 本製品の施工は置き敷き工法です。決して下地に釘打ちや接着剤を塗布しないでください。

## 3.設置箇所の条件 / 下地の準備

- 下地には、ほこり、塗料カス、ワニス、ワックス、油、硬化シーラー、その他の異物がないようにします。既存の床材施工時の糊残りはできる限り取り除いてください。また、下地に不陸がないことをお確かめください。

### ●不適切な下地

下地の過剰な水分は、カビの発生・繁殖など水分による問題が発生する可能性があり、不健康な室内環境の一因となり得ますので、避けてください。

また、クッションフロア、アスファルトベースのフロア、カーペット、接着剤不要のフロア、薄板または置き敷き床、または構造的な不具合があるコンクリートの上には施工しないでください。

### ●木質下地(木構造)

12 mm以上の合板及びパーティクルボードを下地に使用できます。その場合、合板・パーティクルボードのジョイント部分に段差がないことをお確かめください。

### ●重ね貼り

既存の床材に不陸や弾力性がある場合は、本製品を重ね貼りしないでください。

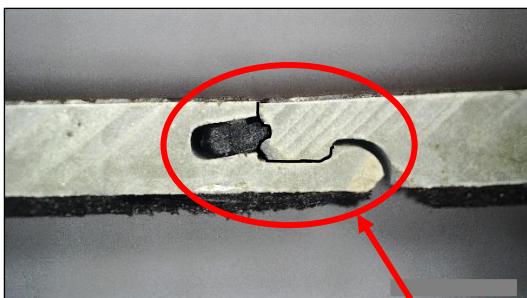
### ●石膏ボード下地

床材用の石膏ボード下地の上に置き敷き床として使用することができます。その際、ジョイントに不陸がないことをお確かめください。

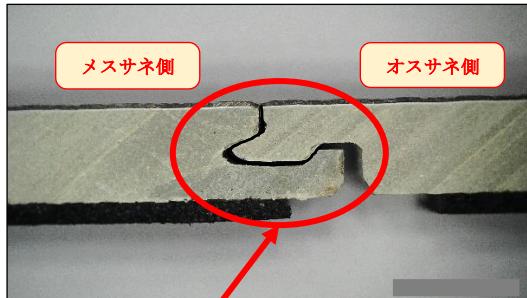
#### 4. サネの構造と注意点

本製品のサネは下図のような構造になっています。短辺・長辺共に上下のサネが噛み合うことにより、糊・釘無しで固定する構造となっています。嵌合部は精緻な構造になっていますので、強い衝撃を与えないでください。

(短辺側のサネ嵌合の断面)



(長辺側のサネ嵌合の断面)



この噛みあい構造により、接合部の段差や目隙を防ぐ

#### 5. 施工

##### ① 割付

[割付図 1]



- まず、床材を取り付ける方向を決めます。本床材を貼り始める前に部屋の内法を測り、縦方向の貼り始め及び貼りじまいが 200mm 以下、横方向の貼りじまいが 30mm 以下にならないように割付をしてください。
- もし、横方向の貼りじまいが 30mm 以下になる場合は、貼り始めの 1 列目の幅をカットして調整してください。
- 縦方向の貼りじまいが 200mm 以下になる場合は、列の最初の 1 枚目をカットして調整してください。各列の最初と最後の床材は少なくとも 200mm でなければなりません。鋭利な万能ナイフと直角定規を使って表面に線を入れて折るか、丸鋸やスライドカッターを使ってカットしてください。切り取った残りは、少なくとも 200mm あれば 2 列目の最初のピースとして使用できます。
- 部屋の周囲とすべての壁や建具等の周囲には、**最小 3mm の隙間(エキスパンション)**が必要です。

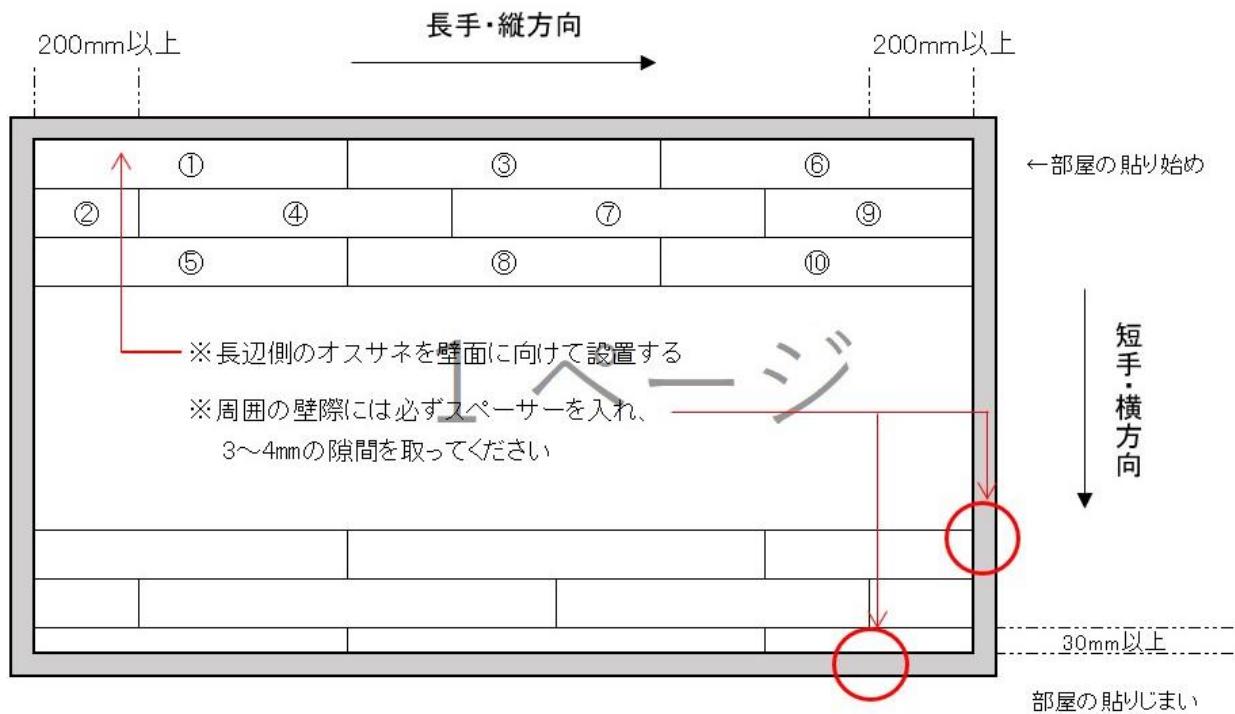
そのため、床材の短辺・長辺と壁の間には必ず3mm～4mmのスペーサーを配置してください。

## ②貼り始め

- 本床材の縦繋ぎは正確に一直線に施工することが重要です。そのため貼り始めの1列目の基準線は、**墨打ち**して決めることをお勧めします。
- 貼り始めの1列目は、最初の1枚目([割付図1]の①)は長辺側のオスサネを壁面に向けて左端に置き、2枚目([割付図1]の②)以降は短辺側のサネ部分を手前から水平にスライドさせて差し込んでください。
- 2列目以降は、長辺側サネを先に差し込んで手前側を4～5cm持ち上げた状態で、短辺側のサネが当たるまで横にスライドさせたのち、ゆっくりと下ろし、勘合部分の表面が重なっていないことを確認してから、親指で「カチッ」と音がするまで押し込んでください。
- 貼り始めの1列～3列目までの貼り精度が全体の仕上がりに影響を与えますので、最初の縦継ぎが一直線になるよう丁寧に貼ってください。特に縦継ぎが長い場合は1列ずつ貼るのでなく、3列目までは[割付図2]のような順番での施工をお勧めします。

※縦継ぎが長い場合の貼り順

[割付図2]



- 床材の縦継ぎ長さが10m以上になる場合は、必ず途中に専用の「T型見切り縁」を入れてください。

## ③サネ嵌合のコツ

- 長辺側の嵌合は接合部に隙間が無いよう施工することが重要です。長辺のメスサネ側を**当て木**で横から軽く叩くと、うまく嵌合できます。わずかでも隙間があると、短辺側のサネが完全に噛み合わず、サネ折れや損傷などの原因となる場合があります。
- サネの溝部分にゴミ等が付着していると「カチッ」と音がせず、正確に嵌合できませんので、手順をさかのぼり、一旦取り外して丁寧にゴミ等を取り除いたうえ、もう一度やり直してください。

### 注意

短辺側のサネをゴムハンマー等で無理に叩き込むとサネが損傷し、施工後に浮き上がってきますので、注意してください。

#### ④貼りじまい

- 列の最後の床材はカットする必要があります。壁と最後の床材の表面との間の距離を測定し、測定値からスペーサー一分(3mm)を引いた幅にカッターや丸鋸、スライドカッター等でカットして貼ってください。

### 6.施工終了

- すべて貼り終わったら、部屋の周囲からスペーサーを取り外します。
- つぎに化粧巾木を取り付けます。3 mm のスペース(隙間)をカバーするのに十分なサイズのものを選定し、床材側でなく、壁側に固定してください。
- 重い家具や家電製品を移動するときは、合板を下敷きにして床材を保護してください。
- 家具や椅子の脚の下には、床材を保護するシートやカバーを使用してください。
- 床材の上に大きな家具を置くと、床材が下地に固定され、均等に伸縮するのを妨げ、側面または端部のはがれ、突き上げ、ズレ等の不具合が生じる原因となりますのでご注意ください。
- 直射日光に長時間さらさないでください。変色や伸び、突き上げを起こす場合があります。日光が当たるピーク時には、カーテンまたはブラインドの使用をお勧めします。

### 7.作業要領図

#### ◆サネのはめ方



1. 長辺からはめ込む。



2. 隣の板の短辺に当たるまで  
スライドさせ、ゆっくり落とす。



3. 短辺の両端を親指で押す。



4. 「カチッ」と音がするまで  
押し続ける。



5. これで固定される。



**注意！**  
サネをハンマー等で無理に叩き込むとサネが損傷します。

### ◆サネの外し方

一旦嵌合させたものを外す場合、まず初めに長辺側の列のすべてを斜めに持ち上げてゆっくりと手前に引く、長辺側のサネを外してください。その後で、短辺側のサネを前後にスライドさせて外します。



1. 必ず長辺から外し始める。



2. 両手で板を持って板が外れるまでそっと持ち上げる。



3. 床にそっと置く。



4. 短辺側を外すには、板をそれぞれ反対方向にゆっくりとスライドさせる。



5. スライド中は、ねじれないように板を軽く押さえ、必ず平行にスライドさせる。



6. 完全に外れるまで、平行にスライドさせ続ける。

※注意！ 下図のように床材を持ち上げて外すとサネが折れますので、十分注意してください。



嵌合したまま短手を持ち上げないでください。



サネが折れた床材は施工しないでください。

## 8.床暖施工

本製品は、床暖房の仕上げ材としてもご使用できますが、以下のような注意事項を遵守して施工及びご使用ください。

### 《施工仕様&使用条件》

床暖方式	温水マット方式（小根太付き） (※電気フィルム式およびコンクリート直埋式ヒーター方式には使用できません)
床構造	断熱材 / 下地合板 / 温水マット / 合板 / S・P・C フローリング (※温水マットと床材の間に必ず 9mm 以上の合板を捨貼りしてください)
使用条件	給湯器の温水温度は 60°C 以下に設定し、本床材の表面温度は 30°C 以下で使用してください。

### 【施工時の注意事項】

- 下地に不陸がないことをお確かめください。不陸がある場合、勘合部の段差が発生し、サネ割れや床材破損の原因となります。
- 床暖房によるフロアの熱伸縮がありますので、壁際には割り箸等のスペーサーを入れ、3mm~5mm の隙間を空けてください。

- 床材の施工距離(縦継ぎ)が長い場合、突き上げやサネ割れが起こる場合があります。縦継ぎ長さが 10m 以上になる場合は、途中に必ず専用の T 型見切り縁を使用してください。

**【使用上の注意事項】**

- 床暖房を使用する場合、またストーブ等の暖房器具と併用する場合でも、床材の表面温度は 30°C を超えないようにご注意ください。

上記施工方法以外の施工方式及び使用方法によるトラブルや不具合については保証致しかねますので、ご注意ください。